

寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Konchyū Danwakai

目次

並木 彰雄	:	埼玉県のヤガ科 (IX)	497
野沢 雅美	:	埼玉県産半翅類雑記 (7)	499
神久保美津夫	:	ムラサキシジミの小観察	500
巣瀬 司	:	ムモンアカシジミがオオイタドリの花で吸蜜	501
江村 薫	:	ヒメアカタテハを札幌で目撃	501
久喜市	:	久喜市の昆虫 (1) ミミズクの記録	502
久喜市	:	久喜市の昆虫 (2) テングチョウの記録	503
8月中旬	:	竜飛でウラナミシジミを採集	503
堤啓輔	:	上尾市・北本市のクロシジミは絶滅したのか?	504
巣瀬 司	:	上尾市・北本市における7月下旬の蝶	504
加藤 輝年	:	埼玉県飯能市でウスイロコノマチョウを目撃	505
牧林 功	:	蛾類3種の蛹の裂開様式	508
柳田 恒一郎	:	埼玉県皆野町3月下旬の蛾の記録 (1)	510
	:	ヒメクロカメムシの記録	511
	:	文献紹介	511
	:	訂正3件	511
竹内 崇夫	:	近況報告 (3)	512
	:	近況報告 (4) ウラギンシジミ散見記	513
	:	宿泊談話会 開かれる	515
小田 博	:	宿泊談話会で採集された鞘翅目	517
柴崎 行雄	:	モンキアゲハの目撃例	519
本野 英夫	:	モンキアゲハの目撃例	519
星 博	:	モンキアゲハの目撃記録	519
	:	トンボ展示館のお知らせ (新井 裕)	520
	:	「埼玉の蝶」出版計画第3報	521
	:	金曜セミナーの報告	523
	:	会報	524
	:	付録	



埼玉県のヤガ科 (IX)

並木彬雄

ヤガ科の第9回として、ツバ亜科及びクルマツバ亜科を記録しておきたい。いずれも手元に集まった標本及びデーターを中心に、未採集のデーターは文献等から入れた。※印は埼玉県未記録種を示す。

ツバ亜科 Hypeninae

1. ヤマガタツバ *Bomolocha stygiana* BUTLER

*Bomolocha*属は、杉繁郎氏が発表した(誘蛾灯No.52)分類にしたがつた。

川口市、浦和市、大宮市、顔振峠、宝登山、志賀坂峠、三峰山、大洞川上流で、4月下旬より9月中旬までの記録がある。

2. ウスズマツバ *B. rhombalis* GUENÉE

志賀坂峠、柄本、大滝村落合で、5月下旬より9月中旬までの記録がある。

3. マルモンウスズマツバ *B. sp.*

志賀坂峠、三峰山、大洞川上流で6月下旬より9月中旬までの記録がある。

4. ハングロツバ *B. sp.*

川口市戸塚(2♂ 23-V-1970)、大洞川上流(1♂ 23-VI-1974)

5. アイモンツバ *B. rivuligera* BUTLER

志賀坂峠、柄本、三峰山、大洞川上流、三国峠で、5月下旬より9月上旬までの記録がある。

6. ムラクモツバ *B. melanica* SUGI

定峰峠、志賀坂峠、大洞川上流、三国峠で、5月下旬より8月上旬までの記録がある。

7. ホシムラサキツバ *B. squalida* BUTLER

東秩父村落合、定峰峠、志賀坂峠、大輪、大洞川上流で、6月下旬より9月中旬までの記録がある。

- 8.※ ミヤマソトジロツバ *B. sp.*

大洞川上流(1♂ 21-VII-1974)、三国峠(1♂ 16-VIII-1974)

- 9.※ シラクモツバ *B. sp.*

川口市戸塚(1♂ 18-V-1974)、三峰山(1♀ 5-VII-1964)、
大洞川上流(1♂ 23-VI-1974)

- 10.※ マガリウスズマツバ *B. sp.*

大洞川上流(1♂ 23-VI-1974)

11. タイワンキシタアツバ *Dichromia trigonalis* GUENÉE

鳩ヶ谷市、寄居町、柄本、三峰山で、6月下旬より9月中旬までの記録がある。

12. クロキシタアツバ *D. amica* BUTLER

浦和市、大宮市、正丸峠、志賀坂峠、三峰山、三国峠で、5月下旬より10月上旬までの記録がある。

13. キシタアツバ *D. claripennis* BUTLER

川口市、鳩ヶ谷市、浦和市、大宮市、寄居町で、3月下旬より9月上旬までの記録がある。

14. トビモンアツバ *Hypena indicatalis* WALKER

大輪 (2♂ 6-IX-1964, 1♀ 9-XI-1969)

15. オオトビモンアツバ *H. hampsonialis* WILEMAN

浦和市 (動物誌)

16.※ ナミテンアツバ *H. rectivittalis* MOORE

三峰山 (1♂ 6-IX-1964)

17. ヒトスジアツバ *H. tatorhina* BUTLER

三峰山 (1ex. 10-V-1964, 2♂ 12-V-1963)

18. ミツボシアツバ *H. tristalis* LEDERER

志賀坂峠、宝登山、柄本、大輪、三峰山、三国峠で、5月中旬より11月上旬までの記録がある。

19. ムラサキミツボシアツバ *H. narratalis* WALKER

川口市 (1♂ 20-VI-1961)

20.※ ホソアツバ *H. whitelyi* BUTLER

志賀坂峠、大輪、三峰山、三国峠で、4月中旬より11月上旬までの記録がある。

21. フタオビアツバ *H. proboscidalis* LEECH

三国峠 (1♂ 3-VII-1975, 1♂ 19-IX-1971)

22. ナカジロアツバ *H. belinda* BUTLER

川口市、浦和市、黒山鉱泉、定峰峠、大輪、柄本、三峰山で、3月上旬より11月上旬までの記録がある。

23. ナミガタアツバ *Rhynchina similalis* LEECH

大輪 (1♂ 12-IV-1964, 1♀ 9-XI-1964, 3♂ 1♀ 9-XI-1969)

24. サザナミアツバ *R. abducalis* vigens BUTLER

浦和市、顔振峠、定峰峠、三峰山で、5月上旬、7月中旬及び10月上旬より11月上旬までの記録がある。

25. トガリアツバ *R. cramboldes* BUTLER

向平 (動物誌)

26. シロスジトガリアツバ *R. morosa* BUTLER
志賀坂峠 (2♂ 26-Ⅶ-1973)
27. アトムラサキアツバ *R. columbaris* BUTLER
定峰峠 (1♂ 18-Ⅶ-1971)、宝登山 (1♀ 8-X-1972)、大輪 (2♂ 9-XI-1970)、三国峠 (1♀ 9-Ⅸ-1972, 1♀ 7-IX-1975)
28. ソトウスアツバ *R. kengkalis* BREMER
正丸峠、志賀坂峠、大輪、柄本、三峰山、三国峠で、4月中旬及び8月中旬より11月上旬までの記録がある。
29. ハスオビチビアツバ *Hypenodes squalida* WILEMAN et SOUTH
川口市 (1♂ 9-X-1969)、定峰峠 (1♂ 18-Ⅶ-1971)
30. クロスジヒメアツバ *Schrankia costae trigalis* STAUDINGER
浦和市野田 (1♂ 15-XI-1969)、天覧山 (データ不明)
31. テングアツバ *Latirostrum japonicum* MIYAKE
顔振峠、柄本、三峰山、三国峠で、4月上旬より5月中旬、及び9月上旬より10月上旬までの記録がある。

本亜科もだいたい出つくしたようですが、あと2~5種の追加が予想されます。又、*Bomolocha*属は、少々データが不足しております。

(〒332 川口市並木町5-2)

埼玉県産半翅類雑記 (7)

野沢 雅美

・ ヒメヘリカメムシの採集例

ヒメヘリカメムシ *Coriomeris scabricornis* (PANZER) は、灰褐色の小型のヘリカメムシである。乾燥地の雑草根際で発見され、特に海岸地帯に多い(日本, 1970)と言われるが、埼玉県では極めて個体数は少なくほとんど目にすることはない。これまで筆者が得た羽生市上村君の利根川の河原の個体があるトすぎない。

このほど2個体目の本種を得たので記録しておく。

採集地：埼玉県児玉町金屋 県立児玉農工高校農場

採集日：1983年10月26日 (午前11時)

採集地は、農場の桑園で、イネ科雑草の除草作業中に発見したものである。

(〒369-12 寄居町桜沢2506-4)

ムラサキシジミの小観察

神久保美津夫

1983年6月30日～9月18日にかけて、飯能、吾野、日和田山の各地で、8回にわたりムラサキシジミの小観察を行ったので報告したい。限られた場所ではあるが、各地とも個体数はかなり多いような気がした。

6月30日 飯能

成虫3♀ 新鮮 5exs. 目撃

7月24日 飯能

成虫2exs. 目撃

幼虫1ex. (終令)

卵 30卵 (内、♀卵のみ孵化)

7月28日 吾野

成虫1ex. 破損個体目撃

幼虫8exs. (1令～終令)

卵 数卵確認

8月18日 飯能

成虫1♀ 新鮮、2exs. 目撃

幼虫10exs. (1令～終令)

卵 10数卵確認

9月4日 飯能

成虫2♂ やや破損

幼虫2exs. (終令)

卵 多数確認

9月11日 日和田山

成虫1ex. 目撃

幼虫11個体 (1令～終令)

卵 10数卵確認

9月16日 日和田山

幼虫8exs. (1令～終令)

9月18日 飯能

幼虫20個体 (1令～終令)

卵 多数確認

以上のようなことから、発生はかなり連続的なことがわかる。また、卵は多數発見されるのだが、孵化率はたいへん悪いようで、7月の採卵以外は確認するにとどめた。幼虫は常に1令から終令まで見られた。蛹は残念ながら発見できなかった。幼虫の発見場所は必ず新芽からであるが、卵の場合は次のような場所である。

1. 新芽、または新芽の基部
2. 新芽に近い古い葉裏、まれに葉の表面
3. 新芽付近の小枝

これらはすべて、地上30cmから3mの高さ（幼虫も共通）

発見された食樹は、シラカシがもっと多く、次にアラカシ、コナラの順であるが、コナラからは1幼のみ発見されたに過ぎない。

(〒358 入間市下藤沢 158)

ムモンアカシジミが
オオイタドリの花で吸蜜

巣瀬司

1983年8月15日 14:10～14:13（晴）、札幌市藻岩山でムモンアカシジミ / 6（新鮮個体）がオオイタドリの花で吸蜜しているのを、また、13:45に交尾中のムモンアカシジミを1組（共に新鮮個体）確認したので報告する。

(〒001 札幌市北区北25条西5丁目22 中野方)

ヒメアカタテハを札幌市で目撃

巣瀬司

1983年8月31日 10:50（くもり）、札幌市豊滝の豊平川の河原で、ハッカで吸蜜していたヒメアカタテハ / ex.（汚損個体）を目撃したので報告する。また、古い未発表記録ではあるが、道内では1975年6月7日に胆振支庁洞爺でヒメアカタテハ / ex.（汚損個体）を、1978年6月に小樽市朝里で / ex.（新鮮個体）を目撃している。

(〒001 札幌市北区北25条西5丁目22 中野方)

久喜市の昆虫 (1) ミミズクの記録

江村 薫

ミミズク *Ledra anditura* (半翅目, ミミズク科) が、下記のように久喜市で採集された。

1983年7月12日, 久喜市西, ♂ / 個体, 成虫, 体長13.8mm。

採集者: 江村 薫一郎

採集地の環境: ノイバラの葉上に静止しているところを採集。付近に樹林はなく、畑と水田、ハンノキが数本、近くにネコヤナギなどがある。

採集者は筆者の息子である。当日帰宅すると、「へんな虫を採ったよ」とミミズクを差し出した。筆者はまだミミズクを採集したことがなかったし、このような関東平野の中心に生息しているとは思わなかった。野沢(1978)¹⁾によると、埼玉県の採集例は埼玉県西部であり、今回のような埼玉県東部での記録はめずらしいと思われる。

生活環について林(1971)²⁾は、「10~11月に産卵、卵越冬、翌年5~6月に孵化、8~9月に成虫になる」、としている。また橋本(1976)³⁾も、8月ごろ成虫になるとしている。今回の記録は7月12日であり、これらの生活環の記載よりかなり早いものである。

食草については、古川、中山(1971)⁴⁾によると「リンゴの害虫、コナラなどにもつく」、としており、橋本³⁾は「シイ、エゴノキ、ネコヤナギの樹上で生活、ケヤキの盆栽にも飼育により産卵、枝が産卵痕のところから折れやすくなるので、ときにリンゴなどの果樹害虫とされることがある」、とし、石原(1965)⁵⁾はクヌギをあげている。今回の記録はノイバラの葉上であるが、リンゴを好むとするならば、同じバラ科であり理解できる。採集地点から30mほど離れた所にネコヤナギがあることから、そこから飛来してきたのかもしれない。

参考文献

- 1) 野沢 雅美 (1978) : 埼玉県動物誌、p. 378, 埼玉県教育委員会.
- 2) 林 正美 (1981) : インセクタリウム、(9) : 36
- 3) 橋本 治二 (1976) : 同 上、(11) : 274
- 4) 古川 晴男、中山 周平 (1971) : 昆虫の図鑑、p. 103, 小学館、東京
- 5) 石原 保 (1965) : 原色昆虫図鑑、(3) : 116, 北隆館、東京

久喜市の昆虫 (2) テングチョウの記録

江村 薫

テングチョウを久喜市で下記のように観察した。

1983年6月10日、久喜市六万部、♂exs. 目撃、写真撮影（同一画面に2個体入っている。）

観察した地点は、加須市に近い小さな雑木林である。12時30分ごろ、高さ4mほどの日の当るエノキの周辺に、2個体が互いに影響しあうことなく飛しようと葉上での静止を繰り返していた。昼休み中であったことから、12時55分に観察を打ち切った。その間、産卵は確認できなかった。

松井ら(1979)¹⁾は、久喜、杉戸、宮代の蝶の綿密な記録を残しているが、テングチョウは記載されていない。氏らからの私信によると、「テングチョウらしい個体を目撃したが、自信が持てなかつたことから記載しなかつた。」とのことである。埼玉県内の山地帯以外の分布について市川ら²⁾は、「低地では浦和～大宮の荒川や見沼代用水に沿って土着しており、1965年頃まで多くの採集例が報告された。」としている。また最近では小堀(1981)³⁾の上尾での報告がある。

筆者は今まで、テングチョウは山地から丘陵地、及びそれに付隨する洪積台地に分布しているものと思っていた。しかし、今回の観察例は、利根川低地の沖積地帯にも生息しているという貴重なデータと考える。

参考文献

- 1) 松井 安俊・松井 英子 (1979) : 寄せ蛾記 (25) : 199-203.
- 2) 同 上 (26) : 209-212.
- 3) 市川 和夫・原 聖樹 (1978) : 埼玉県動物誌、p. 289, 埼玉県教育委員会.
- 4) 小堀 文彦 (1981) : 寄せ蛾記 (33) : 294.

(〒346 久喜市東3-32-18)

8月中旬 竜飛でウラナミシジミを採集

堤 啓輔

竜飛でのウラナミシジミの記録は古くからあるようだが、8月中旬の記録は少ないのでと思われる所以報告しておく。

1983年8月13日(晴れ) /♀, 青森県津軽郡三厩村竜飛燈台付近

(〒339 岩槻市東岩槻4-11-5-153)

~~~~~  
上尾市・北本市のクロシジミは絶滅したのか?

巣瀬司

高崎線に沿って、上尾駅から北本駅の間には、豊かな二次植生の落葉広葉樹林があつたが、宅地化のためこの面積は近年著しく縮少している。筆者は1962年頃から1969年まで上尾市、桶川市、北本市で蝶の採集を行い、上尾市中妻および北本市下石戸下にクロシジミが多産することを、この間ほぼ毎年確認してきた。生息地は、雑木林の一部が伐採され、幼木が生えている陽地であった。1970年以降1982年までクロシジミの発生期(6月下旬～8月上旬)に、これらの生息地を訪れる機会はなかったが、1983年7月下旬に再び本種の採集を試みる機会を得たので、この時の状況を報告したい。

北本市下石戸下およびその近隣の林では、7月22日、7月30日、7月31日の3日間、採集を試みた。以前の生息地の大部分は宅地となり、一部はクリの植栽のため破壊されていたが、生息が可能と思われる「幼木が生えている陽地」は所々に残っていた。しかし、クロシジミはまったく見られなかつた。

上尾市中妻およびその近隣の林では、7月23日と7月30日に採集を試みた。以前の生息地はすべて宅地になっていたが、生息が可能と思われる林はわずかに残っていた。しかし、ここでもクロシジミはまったく見られなかつた。

クロシジミの生息地が上尾市、北本市に現在も存在することは否定できないが、この10数年間の間に本種が激減したことは明らかであり、絶滅した可能性もあると考えられる。

(〒001 札幌市北区北25条西5丁目22 中野方)

~~~~~  
上尾市・北本市における7月下旬の蝶
巣瀬司

1983年7月下旬に、上尾市および北本市で採集、目撲した蝶のうち、主なものを報告する。「目撲」と記していないものはすべて採集個体。

1. アオスジアゲハ

7月22日 北本市下石戸 2♀新鮮

7月30日 上尾市中妻 2exs. 目撲

2. ミドリシジミ

7月22日 北本市下石戸 1♂やや汚損

3. ゴイシシジミ

7月22日 北本市下石戸 約40exs. 目撃

7月23日 上尾市中妻 約20exs. 目撃

4. ウラギンシジミ

7月22日 北本市下石戸 / ♂ 目撃

7月30日 上尾市藤波 / ♀ 2♂ やや汚損 2exs. 目撃

7月31日 北本市下石戸 / ♀ 新鮮 / ex. 目撃

5. テングチョウ

7月30日 北本市下石戸 / ♀ 新鮮

ゴイシシジミの餌であるササコナフキツノアブラムシ *Ceratovacuna japonica* は、雑木林の林縁部のアズマネザサで大発生の状態であった。また、1983年7月29日には、東松山市岩殿で、フジに産卵中のウラギンシジミ / ♀ を目撃した。

(〒001 札幌市北区北25条西5丁目22 中野方)

埼玉県飯能市でウスイロコノマチョウを目撃

加藤輝年

東洋熱帯からアフリカに広分布するウスイロコノマチョウ *Melanitis leda* は迷蝶になりやすい種であるらしく、土着地から遠く離れた埼玉県でも、1975年に浦和で / ♀ が採集されている（市川, 1976、田島, 1976）。

筆者は、偶然にも飯能市で本種を目撃したので報告する。

/ ex. (夏型) 目撃

1983年9月4日 午後6時30分頃

埼玉県飯能市北川

目撲したのは妻の実家の庭で、この日は午後6時に着き、30分ほどして庭に出たところ、植え込みの近くをジャノメチョウ科の / 種がゆっくり飛んでいた。あたりはすでに薄暗く、とっさの同定はできなかつたが、たまたま、停めてあった白い車に止まったのでウスイロコノマであることを確認した。

ネットが間に合わず採集はできなかつたが、静止時に / 種の距離で見えており、同定ミスの可能性はまずないので記録しておきたい。

なお、この目撲の 4 日前の 8 月 31 日に、群馬県吾妻郡中条村でもウスイロ

コノマ / ♀ (夏型) が採集されており (高橋 直樹, 1983) 、採集者は、これが台風 5 号にのって来たのかもしれない記しているが、今回の目撃例はこの推定を支持するものと思う。

台風 5 号は 8 月 5 日にカロリン諸島付近で発生し、大型で強い台風となり日本に接近、8 月 17 日朝、愛知県渥美半島に上陸した。しかし勢力が衰え、もちろん日本海高気圧と中部山岳に阻まれて足踏みしているうちに、東側に次々に積乱雲が発達して気圧の低い部分ができ、それに引きずられるように東海地方を迷走し、関東地方の西部から北部を経て本州の東海上に消えた。17 日 20 時の富士山レーダーの観測では、すでに雨雲も縮小し「台風と呼べない程度の弱さ」になっている。(次ページ参照)

台風の中心が目撲地付近を通過しているため、台風の目にはいり運ばれてきたと考えられないこともないが、実際にはそうしたことはごく稀らしく (宮田・花宮, 1983) 、周辺部を吹く風にのって運ばれ、(台風通過少し前に?) 到着したと考えるほうが妥当かもしれない。

発生後すぐ消滅した台風 6 号と 7 号の影響もなたく無視することはできず、出発地の推定は困難と思う。

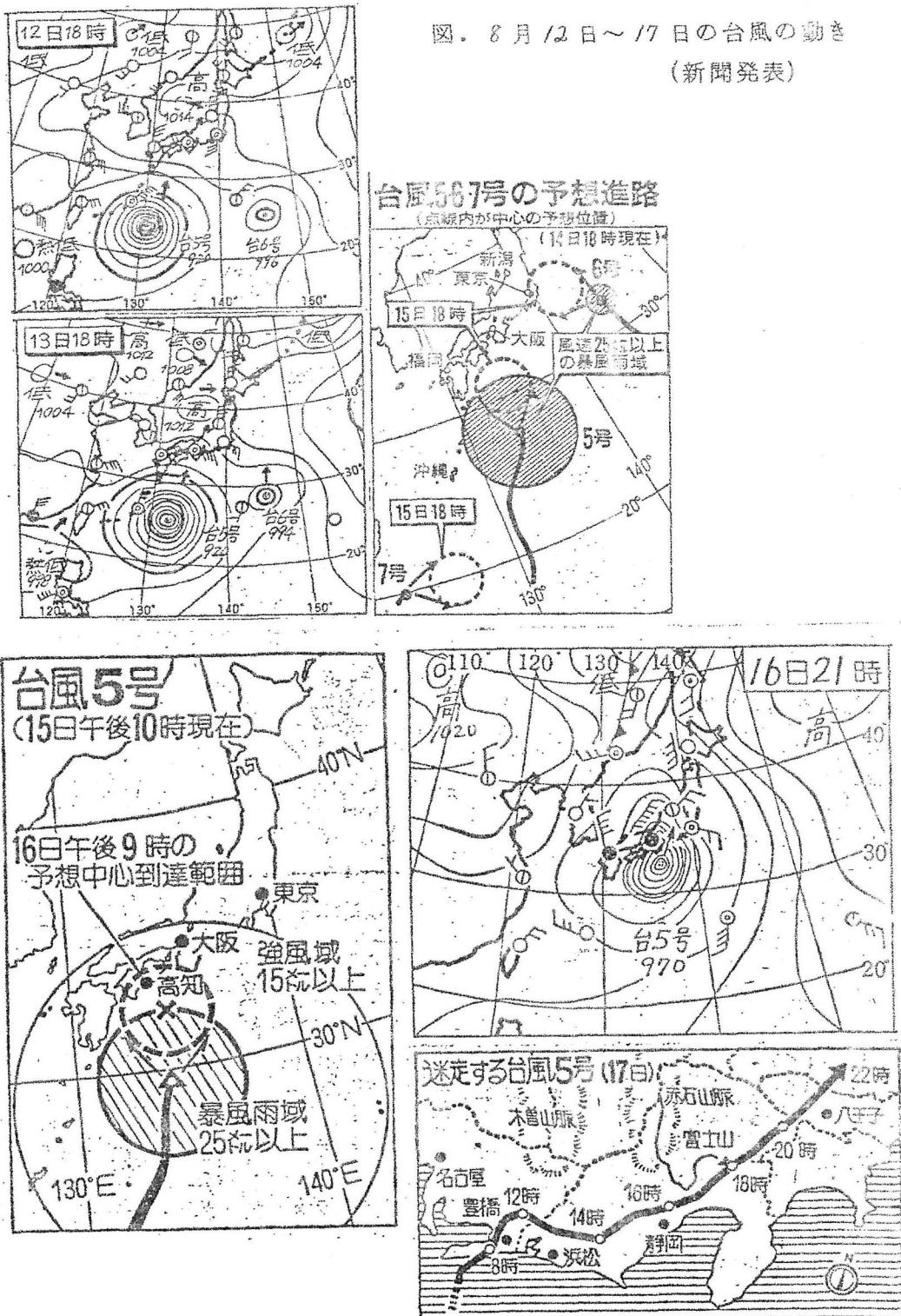
(追記)

上記原稿を投稿後、次の採集記録が発表された。

- 1) ウスイロコノマチョウ / ♀ (夏型) 、神奈川県愛甲郡清川村、8 月 14 日
(津田 芳之 1983)
- 2) ウスイロコノマチョウ / ♂ (夏型) 、横浜市、9 月 10 日
(橋本 育代 1983)
- 3) リュウキュウムラサキ / ♂ (パラオ型) 、水戸市、9 月 10 日
(加藤 一紀 1983)
- 4) リュウキュウムラサキ / ♀ (赤斑型) 、秩父市、9 月 16 日
(新井 裕 1983)

以上の 4 例は、「昆虫と自然」と月刊むしに、それぞれ独立の報文として掲載されたもので、台風についてふれているのは加藤による水戸の 1 例だけだが、これらは、すべて台風 5 号によってもたらされた迷蝶である可能性が高いのではないだろうか。(1983 年 12 月 5 日 記)

図. 8月12日～17日の台風の動き
(新聞発表)



(〒357 飯能市双柳 5/2 - 3)

~~~~~  
蛾類 3 種 の 蛹 の 裂開様式  
牧林功

蛾が羽化にさいして、蛹殻をどのように裂いて出てくるのか、まだ報告がない。そこで、3種の蛾について蛹殻の裂開の様式を報告する。

1. ワタノメイガ *Notarcha derogata* FABRICIUS (メイガ科 Pyralidae)  
[図; 左]

大宮市上小町産の1983年8月1日に羽化した3個体の蛹殻を検した。

その結果、背中線の裂開は、前胸から頭部脱皮線にいたる。中胸後縁からは分岐しない。頭部脱皮線で2分岐した裂線は、それぞれ触角基部にいたり、触角基部の前腹方縁をめぐり、図のa縫線(ほうせん)にはいる。このa縫線は、ここで仮に呼称したのであって、正式名称は不明である。a縫線を裂いた線は前脚基節、転節のへりをぐるりとまわり、またa縫線にもどる。

この裂線とは別に、頭部脱皮線の側腕から触角基部の背縁にはいった裂線は触角背縁をその先端までたどる。ここにいたり、成虫は前方にはい出しが可能になる。

また、前脚基節、転節の節片は膜で前胸節につながっていて、外方に突出したかっこうになる。

2. オオシマカラスヨトウ *Amphipyra monolitha* GUENEE  
(ヤガ科 Noctuidae) [図; 中]

大宮市天沼町産の本年('83)初夏に羽化した個体の蛹殻を検した。

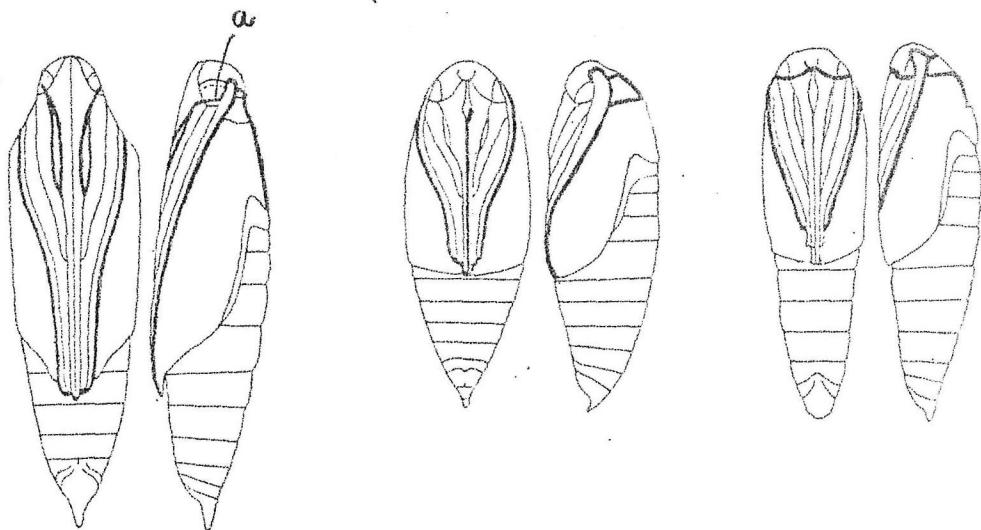
背中線の裂開は前胸のみ。前胸は頭部との境界線も、中胸との境界線もともに裂ける。頭部・前胸間の裂線は触角にぶつかり、二つに別かれる。一線は触角基部をぐるりとめぐり、もう一線は触角背縁をつたわり、触角先端、中脚端をめぐり、小腮(さい)外葉端で左右会合する。そして会合したまん中で、小腮外葉を二分して下唇鬚(しゆ)まで逆のぼる。

3. ウリキンウワバ *Plusia peponis* FABRICIUS (ヤガ科 Noctuidae)  
[図; 右]

大宮市上小町産で、1982年晚秋に羽化した4個体を検した。

背中線の裂開は中胸の前半部のみ。頭部・前胸間縫線、前胸・中胸間縫線はすべて裂ける。裂線はほかに、触角先端から触角背縁に沿い、触角基部をめぐり、前脚・頭部間縫線につたわり、小腮外葉上縁に沿い、下唇鬚上縁で左右会合する。このため、額頭楯アボトームと前胸はそれぞれ別個にはがれ落ちる。

なお、本種の小腿外葉上縁が裂ける点はセセリチョウ科のもの（牧林；1983）に似る。本種はマユを<sup>作</sup>つて蛹化し、セセリチョウ科は蛹化にさいして営繕する。したがって、ともにはい出てから翅を伸ばす、という生態上的一致点がある。



本文を書くにあたり、ウリキンウワバの蛹、ワタノメイガの蛹殻を御恵与された氷室美芳氏に御礼申し上げる。

×      ×      ×      ×

牧林 功 (1983) セセリチョウ科の蛹殻裂開様式の特異性について、  
蝶と蛾 33 (3/4), p. 187.

(〒330 大宮市天沼町2-864)

埼玉県皆野町 3月下旬の蛾の記録 (1)

柳田恒一郎

1983年3月30日～31日に、皆野町で夜間及び昼間、蛾の採集を行った。そのうち、夜間採集で探れたものを、ここにまとめて発表する。夜間採集の場所を提供され、いろいろと協力して下さった山口裕久先生に深く感謝申し上げる。(※印は埼玉県初記録、△印は採集例の少ないもの)

シャクガ科

※ミカヅキナミシャク III-31 / ex.

※ナカモンキナミシャク III-30 10 exs.

ウスカバナミシャク III-31 6 exs.

ハスオビエダシャク (f. *punciaria* LEECH) III-31 2 ♂

ホソバトガリエダシャク III-31 7 ♂

※ヒロバトガリエダシャク III-30 / ♂

トビモンオオエダシャク III-30 / ♂

ヒグマダラエダシャク III-31 3 ♂

アトジロエダシャク III-31 6 ♂

クロモンキリバエダシャク III-31 / ex.

オカモトトゲエダシャク III-31 2 ♂

シロフフユエダシャク III-31 / ♂

トガリバ科

△マユミトガリバ III-31 / ex.

ヤガ科

カバキリガ III-30 7 exs. III-31 3 exs.

ホソバキリガ III-30 2 exs. III-31 / ex.

△ヨモギキリガ III-31 / ex.

シロヘリキリガ III-30 / ♂

スモモキリガ III-30 / ♂ III-31 2 ♂

チャイロキリガ III-30 / ♂ III-31 / ♀ / ♂

アカバキリガ III-31 / ex.

アオヤマキリガ III-30 / ex.

- ブナキリガ III-30 2exs. III-31 / ex.  
✿カシワキボシキリガ III-31 / ♂  
ミツボシキリガ III-31 / ♂  
フクラスズメ III-30 / ex.

採集地はすべて皆野町戦場

(〒351 和光市西大和団地 / -4-301)

ヒメクロカメムシの記録

柳田恒一郎

ヒメクロカメムシは、埼玉県では記録の少ない種と思われる。筆者は、小川町と浦和市で本種を得たので新産地として報告しておく。

・小川町金勝山 / ♀ 3-V-1981 地表

・浦和市秋ヶ瀬 / ♀ 29-V-1983 コナラの幹を歩行中のものを採集

(〒351 和光市西大和団地 / -4-301)

~~~~~

文献紹介 「そして我が祖国・日本」

~~~~~ 本多勝一著 すざわ書店発行(1975) 267 pp.

本書は、いまの日本がどのような道をすすんでいるのかを、長野県・北海道・岩手県の三つの舞台について報告したものです。

内容は、当然自然保護とも深く関係していますが、一般の自然保護論の限界を補ってくれる貴重な文献と言えるでしょう。9年前に発行された本ですが、近く朝日文庫の1冊にもなる予定とのことですので、手軽に読めると思います。

(紹介者: 加藤輝年)

XXXXXX

訂正 1. 本誌No.39 ヒメアカタテへの記録 p. 465

XXXXXX

下から4行目 (誤) 荒川土手 (正) 大宮市荒川土手

2. 同ページ

下から3行目 (誤) 与野市落合 (正) 与野市下落合

3. 本誌No.40 「埼玉県の蝶に関する覚え書き (6) 」

p. 489 上から10行目

(誤) 無脊椎動物 (正) 無脊椎動物

## 近況報告 (3)

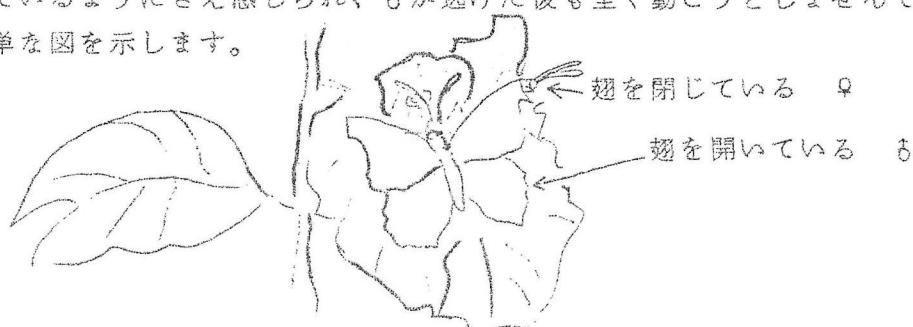
竹内 崇夫

1. 1983年4月28～5月9日、マレーシアへ採集に行きました。

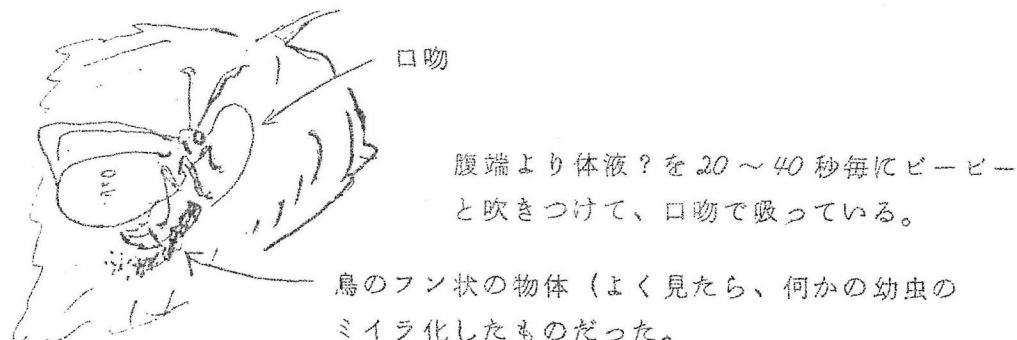
フレザーズヒル周辺、キャメロンハイランドの採集地をレンタカーで点々としました。シジミチョウ科を重点に採り整理中ですが、いずれにしても昆虫は豊富のようです。治安はよいし、心配される病気もなく、何と言っても物価が安いので、一度は行かれるとよい国と思います。

2. 1983年6月26日、芝浦工大（大宮市）近くの野原にて、草の葉上で♀頭のキタテハが見なれない営みをしていたので報告します。多分、いつかの談話会で碓井氏が話されていた、キタテハにおける同種識別？の方法としてとる、♂が♀の後翅裏面上の C 模様に接近する仕草かと思われます。

双方とも指で軽くふれた程度では動じず、♀（と思われる）方はうつとりとしているようにさえ感じられ、♂が逃げた後も全く動こうとしませんでした。簡単な図を示します。



3. 1983年7月16日、大宮市深作の林縁にて、草の葉上でオオチャバネセセリが奇妙な行動をとっていたので報告します。これは、家に戻って書物をみるとセセリチョウの一般的な行為らしいのですが、ともかく図に示します。



(〒330 大宮市丸ヶ崎町 10-17 )

## 近況報告(4) ウラギンシジミ散見記

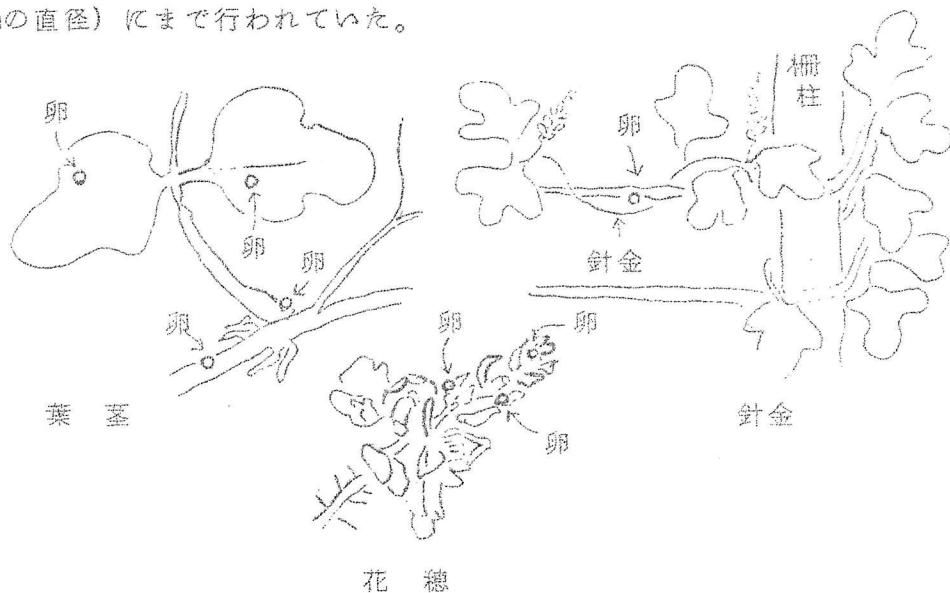
竹内 崇夫

9月にはいってから、週末は専ら家の周り（大宮市丸ヶ崎町）を散見しました。今年は気のせいかウラギンシジミの姿がやたらと目につくようで、近所の空地に、縁の掛け布団をかぶせたようにはびこっているクズの花穂に、純白の小片がハギレよくピラピラまつわりつくように舞っていました。

カメラとシャーレとネットを持ち、ウラギンシジミの生態をのぞいてみて気のついたことを報告します。

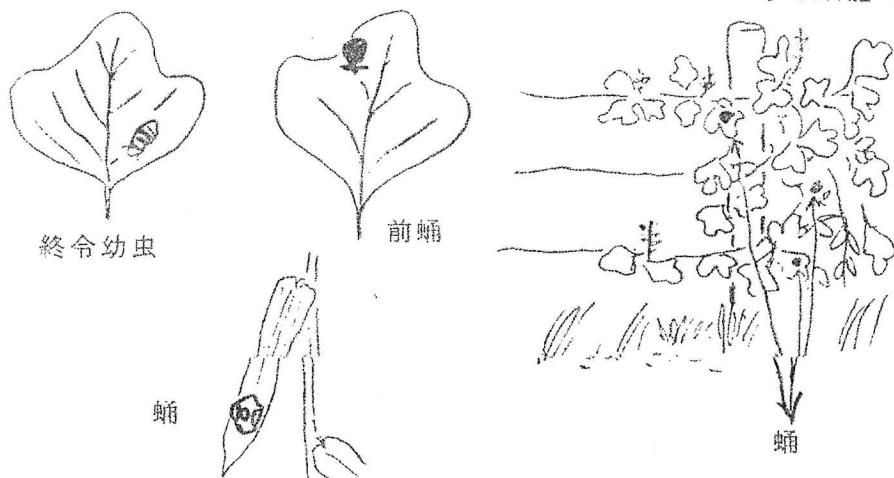
## 1. 産卵について

9月の前半期には、しきりに産卵していました。ルリシジミと競争するようてクズを取りあっているようだった。産卵はクズの花穂が主であるが、葉の表、裏、葉柄、茎と処かまわず行われ、驚いたことにはクズのからまっている柵の針金（2mmの直径）にまで行われていた。



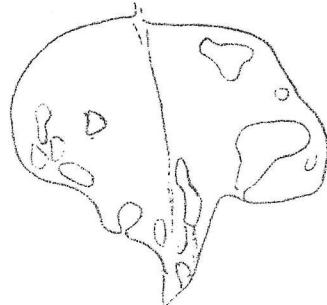
## 2. 蛹化場所について

蛹化は幼虫期の生活場所付近の葉表で行われていた。地表10cmから2m位までの高さで、ササ、キクイモ、クズの葉表にて蛹、前蛹、終令幼虫を発見しカメラにおさめた。



### 3. 共食いについて（飼育時）

直径 100 mm シャーレに 7 頭の幼虫を飼育している時、シャーレ内壁面で前蛹状態にはいった幼虫を中令幼虫 3 頭がまつわりついて食していた。クズの花穂を毎日供給していたにもかかわらずである。中令期の幼虫も脱皮期に食されていた。蛹は無事であった。



### 4. 葉も食べるかについて

クズの花穂を食していた終令幼虫をクズの葉だけの中にいれてみたところ、結構満足そうに食べた。食痕は上図のとおり。この食痕をたよりに野外で葉を食べている幼虫をさがしたが見つからなかった。

(〒330 大宮市丸ヶ崎町 10-17 )

宿泊談話会開かれる

第3回の宿泊談話会が、予定通り昨年8月27日から28日にかけて1泊2日の日程で、埼玉県秩父郡大滝村三峰山の「民宿三峰」を宿舎にして盛大に行われました。特に今回は、蛾類学会々長 井上 寛先生のご参加もあり、かつて蛾屋のメッカであった三峰山が会場ということもあって、前回以上の盛り上がりを見せた宿泊談話会となりました。

8月27日(土)の午前10時半に西部秩父駅に総勢19人が集合して、そこを11時に出発。車を連ねて三峰山東麓を流れる大血川の林道にはいり、まずは肩ならし。12時頃から2時間ばかり大血川東谷を調査する予定でしたが、曇り時々霧というあいにくのコンディションだったので、蛾屋諸氏は早々と三峰山へ行って民宿に落ちつき、夜間採集のため万全の準備を整えることになりました。

大血川居残り組は霧の中でなにをしていたかというと、冬期のゼフ採卵の予行演習。気力と意地でフジミドリを1卵ものにしたのは大収穫でした。後発隊はフジミドリではすみをつけて、タイヤを鳴らし一路三峰山へ。たしか一昨年の談話会の折、キベリタテハが採れなくて、後日、若葉マークの車で瀧川へおつかなびっくりキベリを探りに行つた御仁の話があったけれど、その同一人物が、「対向車は絶対に来ない」という確信に満ちたドライブテクニックで連續するカーブをタイヤを鳴らして走り抜けたのでした。2年の歳月は、短かいようでいて人をずいぶん成長(変ぼう?)させるものですな・・・。

さて、無事に大人17名、小人2名の参加者全員が民宿にそろい、夕食前に夜間採集の準備。2階の数部屋を割り当てられた我々は、大洞谷に面した角の部屋を「採集部屋」にあつらえたのです。すなわち、窓をすべてはずし(開ける、のではなく、ドライバーまで使ってアルミサッシの窓をすべて外す!)、部屋内に白幕を横断させて誘蛾灯をつるしたわけです。気弱な筆者は、この作業を「こんな事をしてよいのだろうか?」という複雑な心境で手伝い始めたのですが、仕事が進むにつれて、だんだん不思議な何ともウキウキとした気分になっていました。そう!祭りの準備をする時のあのワクワクした期待感あります。宿泊談話会というのは、本会の夏祭りのようなものなのでしょうか?!

屋外にもひと張、白幕と誘蛾灯が設営されて準備は完了。夕食の席では、佐々木和男氏による「秩父郡大滝村 東大演習林矢竹沢人000m地点〔灯火に飛來した鞘翅目〕」という資料(プリント3枚、地図1枚)が配布され、氏によっ

て概要の説明がありました。これは、標題地において、1977年と1978年のシーズンに毎月3～5回の灯火採集を行った際に飛来した鞘翅類の総個体数や、カミキリモドキ、ショウカイ類数種の個体数の変動を、気温とともにグラフにしたもので、大変興味深いデータでした。

軽くアルコールも入れて楽しく夕食を終え、各々が好みのポジションに陣取つていよいよ本番です。「採集部屋」と本部（アルコールを常備している所）と屋外の白幕を毒瓶片手に行ったり来たりしている蛾屋諸氏を見ていると、やはりこれは祭り以外の何ものでもないな、と感じました。

有志数名は、深夜、車で三峰山頂まで遠征し、1本だけ点灯していた誘蛾灯をポイントに大物ねらいを試み、ムラサキシタバ／頭をはじめカトカラを数種ものにしたりもしました。結局、若手某君は明け方4時まで採集部屋でねばり、2時間後の6時には別の御仁が起き出して採集を始めるという気合のはいりようで、参加者それぞれが満足のできる収穫だったようです。寝巻きの前をはだけて、採集部屋で鱗粉にまみれて恍惚としてカトカラに見入る某氏、蛾屋諸氏とはまったく違う所へ毒瓶を差し出し続けた甲虫屋某氏、鱗粉の浮いているウイスキーを美味そうに飲んでいた某氏（金粉入り清酒と趣向は何ら変わらない）。皆さん固有の生態を見せながらこの催しを楽しめたようでした。

また、この宿泊談話会に参加したふたりの昆虫少年、松井純一君と佐々木晋吾君の採集意欲と博識ぶりには目を見はるものがあり、埼玉昆虫談話会の将来は明るいと言えそうです、たったひとつの心配事除去しては・・・。

その心配事というのは「隠れ蛾屋」の存在が発覚したことなのです。すなわち、金曜セミナーなどではチョウチョウ（しかも稀種とか美麗種）の話しかしないのに、この宿泊談話会では昼間の採集など意中になく、誘蛾灯の青い光に蛾と同じような反応を示して興奮し、アサギマダラやタテハチョウ類がはいるはずだった三角紙にはカトカラがはいってしまった自称「蝶屋」が若干いたのです。今年は「踏み蛾」と「踏み蝶」を用意して（ムラサキシタバとオオムラサキの翅がよろしい）隠れ蛾屋をあばいておきたいと思います。今回、蝶類の記録が少ないので、日曜の昼間、蝶を追うエネルギーも蝶を入れる三角紙も無くしてしまった自称「蝶屋」がいたためだと思って下さい。

28日の朝には採集部屋を「普通の部屋」に戻し、9時半に三峰山頂へ向つて出発しましたが、晴れたり曇ったりの天候であまり収穫もなく、昼すぎに民宿に戻って来て、ここで一応解散をしました。疲れた人、眠い人は一路わが家へと向い、気力と三角紙が残った根性の人は川又へ小物？をねらって出発しました。後日、根性の人からお聞きしたところ、「赤い小物」は採れなかつたそうです。（参加者名簿を次ページ下段に掲載）

(編集子記)

## 宿泊談話会で採集された鞘翅目

小田 博

\*:埼玉県未記録種

## CARABIDAE オサムシ科

1. *Damaster blaptoides oxurooides* SCHAUM ヒメマイマイカブリ  
Mt. Mitsuminezan, lex., 27日 (糖蜜トラップ 樹幹)

## HARPALIDAE ゴミムシ科

- 2.\* *Pterostichus prolongnatus* MORAWITZ オオクロナガゴミムシ  
Mt. Myôhôgatake, lex., 28日 (三峰山々頂付近、ブナ?の大木の根ぎわ)  
3.\* *Agonum buchanani* HOPE オオアオモリヒラタゴミムシ の朽木内)  
Mt. Mitsuminezan, lex., 27日 (灯火)
4. *Breña perforata* BATES オオミヅアナアトキリゴミムシ  
id., lex., 27日 (灯火)

## STAPHYLINIDAE ハネカクシ科

- 5.\* *Oxyporus basicornis* CAMERON ヒメオオキバハネカクシ  
Ôchigawa, 4exs., 27日 (東大演習林入口付近、丸太のキノコ・種不明)  
6.\* *Philonthus cyanipennis* FABRICIUS ルリコガシラハネカクシ  
Mt. Mitsuminezan, 2exs., 28日 (丸太の下)  
7.\* *Gyrophaena niponensis* CAMERON ヤマトヒラタキノコハネカクシ  
Ôchigawa, lex., 27日 (5に同じだが、キノコは別種・種不明)

## LUCANIDAE クワガタムシ科

8. *Nipponodorcus rubrofemoratus* VOLLENHOVEN アカアシクワガタ  
Mt. Mitsuminezan, 1♀, 27日 (樹幹)

## LEIODIDAE タマキノコムシ科

9. *Pseudocolenis lata* PORTEVIN ウスイロビメタキノコムシ  
Ôchigawa, 3exs., 27日 (5に同じ)

## CANTHARIDAE ジョウカイボン科

10. *Stenothemus badius* KIESENWETTER クリイロジョウカイ  
Mt. Mitsuminezan, 2exs., 27日 (灯火)

## RHIZOPHAGIDAE ネスイムシ科

- 11.\* *Rhizophagus japonicus* RETTER ヤマトネスイ  
Ôchigawa, lex., 27日 (5に同じ)

× × × × × × × × × × × × × × × × × × × × × × ×

〔宿泊談話会参加者 19名〕

井上 寛 市川 和夫 離井 徹 江村 薫 小田 博 神部 正博 小堀 文彦  
坂田 正哉 佐々木 和男 佐々木 普吾 武田 正之 堀 啓輔 氷室 美芳  
星野 正博 牧林 功 松井 純一 松井 英子 松井 安俊 山崎 正則  
(鱗翅目の記録は、次号にまとめて掲載します)

## NITIDULIDAE ケシキスイムシ科

- 12.\**Cyllodes semiglobosus* RETTER マルマルケシキスイ

Mt. Mitsuminezan, 7exs., 27日 (丸太のカワラタケ)

- 13.\**Neopalliches omogonis* HISAMATSU タテスジマルケシキスイ  
Ochigawa, lex., 27 (5に同じ)

## EROTYLIDAE オオキノコムシ

14. *Tritoma nipponensis* LEWIS クロチビオオキノコムシ

Mt. Mitsuminezan, 1ex., 28日 (粗のピーティングより)

15. *Episcapha gorhami* LEWIS ミヤマオビオオキノコムシ

id., lex., 2exs.(M.HOSHINO leg.), 27日 (12に同じ、多数)

## ENDOMYCHIDAE テントウダマシ科

16. *Mycetina amabilis* GORHAM キボシテントウダマシ

Ochigawa, lex., 27日 (7に同じ)

Mt. Mitsuminezan, lex., 27日 (12に同じ)

17. *Endomychus gohrami* LEWIS ルリテントウダマシ

Mt. Mitsuminezan, lex., 27日 (葉上)

## TENEBRIONIDAE ゴミムシダマシ科

- 18.\**Bolitoxenus bellicosus* var. *incurvatus* LEWIS コブスジツノゴミムシダマシ

Mt. Myōhōgatake, 6exs., 28日 (2に同じ)

19. *Platydemia nigroaeneum* MOTSCHULSKY クロツヤキノコゴミムシダマシ

Mt. Mitsuminezan, lex.(M.HOSHINO leg.), 27日 (12に同じ、多数)  
3exs., 28日 (葉上)

## MELANDRYIDAE ナガクチキムシ科

- 20.\**Orchesia deversenotata* PIC マルモンニセハナノミ

Mt. Mitsuminezan, 3exs., 28日 (14に同じ)

- 21.\**Anisoxya conicicollis* CHAMPION チビホソナガクチキムシ

id., lex., 27日 (12に同じ)

## CHRYSOMELIDAE ハムシ科

- 22.\**Taumacera tibialis* JACOBY クロバヒゲナガハムシ

id., lex., 27日 (灯火)

23. *Stenoluperus nipponensis* LABOISSIERE ヒゲナガウスバハムシ

id., 2exs., 27日 (灯火)

## ANTHRIBIDAE ヒゲナガゾウムシ科

24. *Litocerus laxus* SHARP カオジロヒゲナガゾウムシ

Mt. Mitsuminezan, lex., 28日 (6に同じ)

## ATTELABIDAE オトシブミ科

25. *Apoderus jekelii* ROELOFS オトシブミ

id., lex., 28日 (葉上)

モンキアゲハの目撃例

柴崎行雄

1983年8月20日、埼玉県比企郡都幾川村において、モンキアゲハを1頭  
目撃し撮影したので報告します。

(〒346-01 南埼玉郡菖蒲町小林4432)

モンキアゲハの目撃例

藤本英夫

モンキアゲハを県内で目撃したので報告します。

場所：埼玉県新座市堀ノ内3-10-14 道路上にて

日時：1983年8月27日 午後3時

性別は不明。ネットを持っていなかったので捕獲できなかつたのが残念  
です。目撃したのは1個体で、高さ1.5m位の所を20m位の距離で3往  
復。県内では珍しいので報告します。

(〒354 富士見市水谷東3-29-10)

モンキアゲハの目撃記録

星野正博

1. 1983年7月30日 埼玉県秩父郡大滝村川又の、滝川方向へ少しあはいった  
地点にてガケから1本つき出した形のクサギの花に吸  
蜜していた。このクサギは同時にカラスアゲハも2~  
3頭訪花していた。(AM 11:30頃)

2. 1983年8月2日 浦和市針ヶ谷の与野駅ホームを浦和市内から与野市方  
向へ向ってゆっくり横切って飛び去った。(PM 13:30頃)

(〒338 与野市下落合561)